

## 最新の医療機器 手術支援ロボット「ダビンチ」を導入しました



低侵襲治療  
ロボット手術  
前立腺がん

より安心安全の手術、患者さんの負担軽減をめざして

### 手術支援ロボット「ダビンチ」とは

ダビンチは1990年代に米国で開発され、1999年よりIntuitive Surgical社から臨床用機器として販売されている低侵襲の手術支援ロボットです。日本においても急速に普及しつつあり、健康保険の適応にもなっています。

1～2cmの小さな創から内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高精度の内視鏡手術を行います。術者は高解像度の3Dモニターにより拡大される術野を見ながら、緻密な動きができるロボットアームを操作して手術をいたします。

ロボット支援低侵襲手術（ダビンチ手術）により、通常の症例でも複雑な症例でも患者さんに安全かつ有効な低侵襲治療を提供できるようになりました。これこそがダビンチ手術が患者さんにもたらす大きな価値であるといえます。

### 対象となる疾患

#### 「前立腺がん」

限局性前立腺がんを対象の1つとする手術です。

前立腺と精嚢の摘除、尿道と膀胱を吻合するもので、早期の前立腺がんに対する有効性が確立された治療方法です。

当院では当面、「前立腺悪性腫瘍に対する前立腺全摘術」適用の患者さんを対象としています。

腎臓や消化器など他疾患についても体制が整い次第、対応していく予定です。

### 最新機種 ダビンチX サージカルシステム



ダビンチXはda Vinci 第4世代の最新機種です。

前世代機と比べてアームが細くなり、加えて可動域がより広がったことが大きな特徴です。

これにより、術中のアーム同士の干渉による手術操作の中断が大幅に減少し、より手術時間が短縮するメリットをもたらします。



泌尿器科副部長  
兼ロボット支援手術室長  
古内 徹 医師

• **がん組織がより正確に摘出できる**

内視鏡の拡大視野を用いることに加えて人間の手より繊細な動きができる特殊なアームを操作することで、細かい患部まで正確に処理をすることができます。

• **傷口が小さい**

鉗子を挿入するために皮膚を数か所1~2cm程小さく切開します。また、がん組織摘出時の傷口も最小限(3~5cm)に抑えることができます。

• **術中の出血量が少ない**

侵襲の少ない手術のため、術中の出血量が少なくなります。これにより当然のことながらお身体への負担も少なくなります。

• **疼痛が少ない**

痛みは患者さんを悩ませる大きな要因です。傷口が小さいので術後の痛みが少なくなります。個人差はありますが、痛みを感じる期間も短くなります。

• **早期の社会復帰**

上記したメリットにより、術後の回復が早くなります。その分、早期の社会復帰ができるようになります。

手術支援ロボット『ダビンチ』は、前立腺がん、腎臓がんに対する手術機器として効果、安全性共に確立されています。また他臓器のがんに対しても適応が拡大しており、さらなる可能性が期待されます。

患者さんのニーズに可能な限りお応えしつつ、このダビンチを有効活用し、正確で安全な「安心できる医療」を提供いたします。



手術に用いる  
ロボットアーム

PSA検査を定期的に受けましょう

PSA検査とは、前立腺がんの可能性があるかどうか分かる採血による検査です。当検査を定期的に行うことにより、前立腺がんによる命を落とすリスク、がんが転移するリスクが下がります。

最近の統計や人口動態から、前立腺がんにかかる患者さんが飛躍的に増加すると懸念されています。前立腺がんは早期発見ができれば、その生存率も高くなります。ですから、定期的にPSA検査を受けることが非常に大切であるといえます。

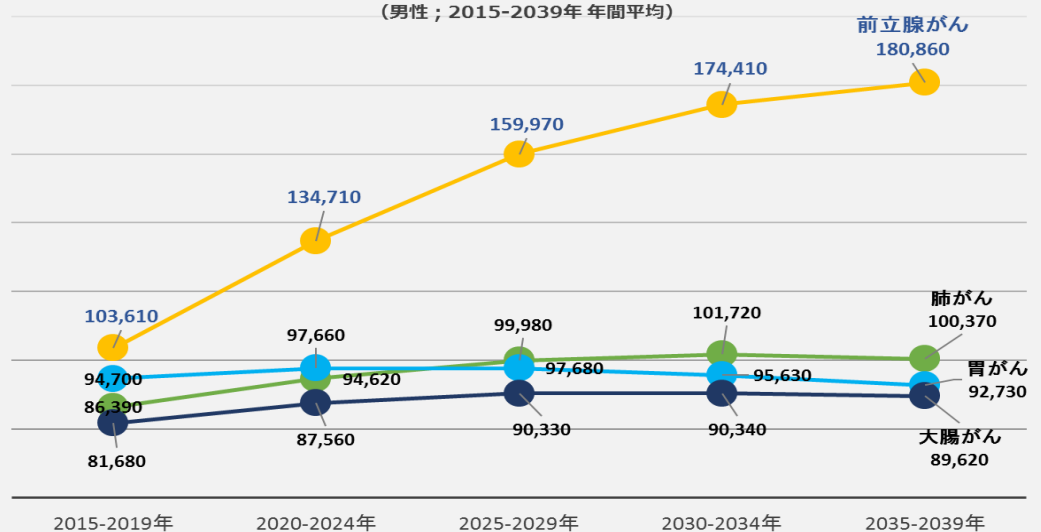
PSA検査の実施については、横浜市のがん検診で50歳以上の市民が年に1回、自己負担1,000円で利用できます(2019年4月現在)。

当院での検査もちろん可能ですが、地域のクリニックや健診センターなどでも対応可能な施設は多くあります。

まずは主治医やかかりつけ医の先生にご相談いただくことをお勧めいたします。

主要部位別がん罹患数推移の予測

(男性; 2015-2039年 年間平均)



平成28年度 国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録統計」より

